

研究種目: 基盤研究(C)

研究期間: 2006~2009

課題番号: 18530558

研究課題名(和文) 記憶における時間的展望性及び情動性の効果

研究課題名(英文) Effects of time prospective and emotionality in memory

研究代表者

豊田 弘司 (TOYOTA HIROSHI)

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 90217571

研究分野: 社会科学

科研費の分科・細目: 心理学・実験心理学

キーワード: 実験系心理学, 時間, 偶発記憶, 情動知能, 情動性

1. 研究計画の概要

本研究では、展望的記憶及び情動と記憶の関係に注目し、記憶に及ぼす時間的展望性及び情動性の効果を検討する。記銘語に対する精緻化情報を時間区分(過去、未来)と情動区分(快、不快)の組合せによって操作し、上記の効果を検討するのが第1の目的である。また、記憶は個人差要因の影響を受けるが、情動性に関する個人差と記憶成績との関連性はほとんど明らかにされていない。そこで、第2の目的は情動を処理する能力を情動知能尺度(ESQ; Takšić, 2002; WLEIS, Wong & Law, 2002)の日本版によって査定し、情動知能の個人差が、記憶に与える影響を検討することである。さらに、記銘語に関連する人物情報に対する情動性の違いが、記憶に及ぼす効果を検討することが第3の目的である。

2. 研究の進捗状況

(1) 時間と情動の組合せ(目的1) 精緻化情報が過去である場合が、未来である場合よりも再生率が高かった。これは未来よりも過去の出来事の方が情報量が多いことによるものと考えられた。ただし、時間と情動との組合せによる顕著な違いは明らかにならなかった。そこには、記銘語の情動性よりも記銘語から想起される過去もしくは未来の出来事の情動性が反映していた。

(2) 情動知能の個人差(目的2) 情動知能尺度の日本版は、成人版(Toyota, Morita, & Takšić, 2007)、高校生版(豊田・酒井, 2008)及び中学生版(豊田・桜井, 2007)を開発した。記憶と情動知能の関係においては、情動知能の高い者は、記銘語から想起された過去の出来事の情動性に関係なく、記銘語を再生できるが、情動知能の低い者は情動性の強い快もしくは不快な過去の出

来事を想起した場合が、中立的な出来事を想起した場合よりも再生率が高かった。また、過去及び未来の出来事の両方を想起させた場合、情動知能の高い者は、過去でも未来でも情動の強い快もしくは不快な出来事を想起した場合が、中立的な出来事を想起した場合よりも再生率が高かった。しかし、情動知能が低い者では、未来の出来事を想起した場合に情動性による再生率の違いはなかった。これは、情動知能が低い者は未来の出来事の情動を処理することが難しく、情動の強い快や不快な未来の出来事を記銘語を検索する際の手がかりとして利用できない可能性が示唆された。

(3) 人物情報の情動性の違い(目的3)

記銘語に対する精緻化情報が人物情報である場合が、意味情報である場合よりも再生率が高いこと、人物情報に対する情動性(快、不快)及び記銘語に対する適合性によって再生率の異なることが示された。

(4) その他 情動知能の個人差が孤独感や自尊心といった生活適応の指標と関連することが示された。また、居場所(「安心できる人」)が孤独感に及ぼす効果に情動知能が介在する要因であることも明らかにした。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

設定した3つの目的をほぼ達成し、情動知能と生活適応の関連も明らかにしている。特に、情動知能尺度の開発は成人版、高校生、中学生用と発達的な考慮も行っている。また、記憶との関連では情動知能による精緻化情報としての過去もしくは未来の出来事の利用の違いを明確にした。このことは、本研究の達成度を評価する上で特に顕著な成果と位置づけられる。

4. 今後の研究の推進方策

(1)記憶と情動の関係に関する文献整理
本研究での3つの目的に対応する成果を整理し、Talmi et al.(2007)に代表される従来の研究をさらに詳細に展望し、残された研究課題を明確にする。

(2)情動の組合せと自己選択効果
記憶における自己選択効果の研究では、情動知能の個人差を検討していない。記銘語対の情動性の組合せ(快-快, 快-不快, 不快-不快)を設定し、情動知能の高い者と低い者との自己選択効果の大きさを比較する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8件)

- ① Toyota, H. Interpersonal communication, emotional intelligence, locus of control and loneliness in Japanese undergraduates. Refereed Proceedings of the 6th Communication Skills in University of Education Conference, 42-54.2008, 査読有
- ② 豊田弘司・酒井雅子 高校生用情動スキルとコンピテンス質問紙尺度の開発 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 17, 11-14. 2008 査読無
- ③ 豊田弘司・桜井裕子 中学生用情動知能尺度の開発 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 16, 13-17. 2007 査読無
- ④ Toyota, H., Morita, T., & Takšić, V. Development of Japanese version of the emotional skills and competence questionnaire. *Perceptual and Motor Skills*, 105, 469-476. 2007 査読有
- ⑤ Faria, L., Lima Santos, N. Takšić, V., Raty, H., Molander, B., Holmstrom, S., Jansson, J., Avsec, A., Extremera, N., Felandez-Berrocal, P., & Toyota, H. Cross-cultural validation of the Emotional Skills and Competence Questionnaire (ESCCQ). *Psicologia*, XX(2), 95-127.2006 査読有

[学会発表] (計 8件)

- ① Toyota, H. Individual differences in emotional intelligence and incidental memory of words. Paper presented at 29th International Congress of Psychology, 2008年7月23日 Berlin, Germany.
- ② Toyota, H. Developmental differences in the effects of emotional intelligence on academic performance in Japanese students. Symposium in 29th International Congress of Psychology, 2008年7月23日 Berlin, Germany.
- ③ 豊田弘司 偶発記憶に及ぼす情動, 時間的次元及び呈示形式の効果 日本心理学会第71回大会 2007年9月20日東洋大学, 東京
- ④ Toyota, H. The person that ease your mind

("Ibasyo") and emotional intelligence in interpersonal adaptation. Symposium in 4th European Congress on Positive Psychology, 2008年7月3日, Rijeka, Croatia

- ⑤ Toyota, H. The effects of time dimension and presentation on incidental memory. Poster presented at 10th European Congress of Psychology 2007年7月6日, Prague, Czech Republic.

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0件)

- 取得状況 (計 0件)

[その他]